

日高病院での研修を終えて

自治医科大学附属さいたま医療センター腎臓内科 睦好祐子

私は現在医師 6 年目で埼玉県内の大学病院の腎臓内科に所属しています。日高病院へは医師 5 年目の時に研修させていただきました。

腎臓内科として働き始めてから慢性腎不全患者・血液透析患者のバスキュラーアクセス作成やシャントトラブルは腎臓内科がファーストタッチすることがほとんどであり、他院に紹介することはできても、紹介する必要があった症例かどうか、緊急性があるかどうかなど自分の判断で行うことができなかつたため、バスキュラーアクセスの研修をさせてもらおうと思いました。また自施設では腎移植は行っておらず実際に腎移植に携わることで腎移植の流れや術前・術後の治療方法、利点・欠点などを学び、腎代替療法選択を行う上で生かしたいと思い、腎移植も行っている施設での研修を希望しました。

日高病院は上司が研修していた施設ということもありましたが、生体腎移植術 23 件、バスキュラーアクセス造設術(内シャント、人工血管、動脈表在化、カフ付きカテーテル)446 件、VAIVT2120 件という手術件数を誇り、スペシャリストの指導の下、十分な症例数を経験できると確信し、見学したその日に研修させていただくことを決めました。

最初の 2 カ月は助手が主で基本的な外科的手技・手術の流れを身につけます。3-10 カ月は低難度の手術は基本的に術者となり、11 カ月からは希望の手技を集中的に実施します。外科研修は初期研修以来であり、助手として入る 1 例 1 例が非常に勉強になり、手術をする以前の基本のきから丁寧に教えていただきました。また、ただ単に手術方法や手順を教わるだけではなく、なぜこのようにしなくてはいけないのか、しっかり理由づけた指導法で、様々な症例に対し柔軟に対応する能力も身につけることができました。段階的にアセスメントも自分で行い、考える力を養い、またその後フィードバックをもらうことでさらにステップアップすることができました。シャントトラブル症例（シャント破裂、血清腫、ソアサム症候群、シャント瘤、人工血管閉塞や感染など）をみることも多く、静脈結紮や血栓除去などは研修生が執刀させてもらうことができます。

腎移植に関しては月に 1-2 件ほど手術があり、腎移植専門医のもとでレシピエント、ドナー、両手術への参加、体液バランス、移植腎エコー、免疫抑制剤血中濃度管理などの術後管理、定期的な移植腎生検の施行、通院中の移植患者が感染症や消化器症状、腎機能障害など認められた際の入院管理、腎移植患者の外来に携わり学ぶことができます。術後からとめどなく流出する尿とクレアチニンの下がり方はみているだけで楽しかったです。

入院は基本的には移植患者とアクセス関連の患者ですが、透析導入患者を受け持ったり、月に 2-3 回一般内科の患者の日当直を行い、入院した場合はそのまま受け持つことが多く、内科医としての勉強の場もあります。

現在私は自施設の関連病院で腎臓内科だけで内シャントの手術を行い、VAIVT を立ち上げることができました。内科で完結した治療することは困難な症例でも、一度でも見たこと

があるものと見たことがないものでは、追加する検査や緊急性があるかなどの対応の仕方が全く違うと実感しています。たった 1 年でここまで成長できるようになったのも日高病院の先生方のご指導のおかげです。

最初は外科の先生方の中での研修で不安があり、日々眼鏡姿で化粧が薄くなり女子力は少し低下しましたが、飲み会やゴルフなどプライベートも一緒に過ごさせていただき、実りある研修を行うことができました。1 年間本当にありがとうございました。

腎臓内科の先生！ 日高病院で研修してみませんか！

竹前 宏昭

ホームページをご覧になって頂きありがとうございます。おそらくホームページをご覧になられた方は「日々の臨床で自分の力量に悩んだり、新しい技術を習得したい」といった向上心 溢れる方に間違いないと思います。または、「日高病院で研修したいけど様子がわからなくて 不安」といった気持ちの方もいらっしゃると思います。私からのメッセージがそんな皆様の前に 進もうとする行動力の手助けになればと思います。私は長野県で腎臓内科医として 6 年間勤務し専門医を習得した後に日高病院に研修に来させて頂きました。理由は「地元で高度で標準的な医療技術・知識を持ち帰りたい」というその 1 点でした。長野県では腎臓内科医が「CKD 外来、透析回診、シャント関連手術、シャント PTA、腹膜透析手術」を全て行います。漫然と仕事がこなせる様になるにつれもっと成長して難易度の高い手術もできるようになりたいと思うようになりました。また腎臓内科医でありながらも腎移植に精通しておらず、このままでは患者さんに「標準的な医療を提供できない」と迷うようにもなりました。そんな折に学会発表で知った日高病院腎臓外科に興味を持ち 2015 年夏見学に行くことにしました。見学に行って驚いたのは「症例の豊富さ、治療の柔軟性」でした。ある程度は想像していたものの PTA 件数の多さ、バスキュラーアクセスの臨機応変な術内容に驚嘆しました。赴任してすぐに執刀医として修練を積ませて頂ける環境ですので、PTA では 60 件/月以上、外科執刀では 10 件/月前後と助手の研鑽を積むことができます。さらに毎月 1 件以上はある腎移植患者さんの免疫抑制剤管理や術後管理も主治医となって研鑽を積むことができます。この様に忙しいけれど充実した日々を過ごせる病院でキャリアを磨きたいと思って就職するに至りました。休日はしっかり休むことができるように当番制で配慮もされており、On-Off がはっきりした職場でもあります。是非一度日高病院に見学にきて雰囲気を感じ取ってください。お待ちしております！！！！

日高病院での 1 年間の国内留学を経て

自治医科大学附属さいたま医療センター腎臓内科

進藤 充稔

私は、3 年目から大学付属病院の腎臓内科として勤務しておりました。病院によっては腎臓内科がシャント手術や PTA(経皮的血管形成術)を施行するところがあります。私の勤務先もシャント手術は、腎臓内科で行っております。しかし、自分が満足できるような症例数がなく、スキルアップするには時間がかかると感じていました。また、透析管理をしているとわかることですが、シャント血管の狭窄やそれに伴うトラブルを多々みることがあり、自己完結できるように PTA を習得したいという気持ちが日々増していきました。そんな時に日高病院腎臓外科に募集をホームページで見つけて、ここで 1 年間勉強してみたいと思い平成 28 年 4 月から腎臓外科にお世話になることになりました。当初は、内科と外科の違いに不安がありましたが、上司はみんな優しく（時には厳しく。。）指導して頂き、すぐに環境に慣れることができました。（腎臓外科のホームページをみるとわかりますが、プライベートでもゴルフ・マラソン・飲み会と仲の良い科です）最初の 1 カ月程は、指導医の介助がメインとなりますが、そこで助手としての経験を積むことで自分が実際に執刀する時に活かされました。2-3 カ月後には力量に合わせて内シャント手術や PTA を指導の下で行っていきます。半年も経過すると、自分でマネージメントを行い、それに対して指導医からフィードバックを受けることとなり、より自分の中での理解は深まることとなりました。実際に 1 年間で私自身が執刀させて頂いた症例は、手術 62 件（内シャント手術、シャント閉鎖術、末梢静脈結紮術など）・PTA489 件（ステント留置や中心静脈狭窄も含む）・長期留置型カテーテル 25 件（挿入 21 件、抜去 4 件）でした。また、日高病院腎臓外科では腎移植を行っており、月 1 件程度の周術期管理をみることもできます。術後も同科で外来フォローしているため、感染症や拒絶反応などの移植後の症例も経験することができます。通常内科医としては、移植手術を間近にみることはできませんし、末期腎不全に至った場合に腎臓内科医としては治すことはできませんが、透析患者で自尿がなかったレシピエントが移植により排尿を認め Cr の改善とともに顔色がよくなっていくのを見て感銘を受けました。日高病院は、科ごとの垣根は低く、コメディカルとも仲の良い病院です。まったく戦力ならないところから、少しは自力で歩けるようになったのも周りの理解とサポートがあったからで、この 1 年間では、数えきれない程の経験をさせて頂きました。これからは今の勤務地で日高病院での経験値を還元することになりますが、更なるスキルアップをしたい時には是非日高病院で勉強をさせて頂きたいと思っております。1 年間ありがとうございました。